

神戸大学大学院
人間発達環境学研究科

Graduate School of
Human Development and Environment

2026

人の発達、人間の発達を支える環境

人間発達環境学研究科では、人の一生を通じた発達と、その発達を支える環境を対象とした教育研究を行っています。複雑な諸課題を抱く現代社会において、人がどのように潜在的に持つ能力を開花させるのか、そして、そのためにどのような環境が必要なのかについて、原理的、実践的に研究し、人のよりよい生（well-being）の実現を目指して「知」の構築を行っています。

人間発達環境学研究科は、well-being 社会の創造を担う人材を養成します。

◎課題解決のために多様な人々と実践的に協働し、リーダーシップを発揮できる人材

◎幅広い視野と深い専門的知識を持った高度専門職業人や研究者

（進路：民間企業、NGO、NPO、公的機関、研究教育機関等）

アドミッション・ポリシー

入学者受け入れ方針

人間発達環境学研究科は、人間の発達およびそれを取り巻く環境に関わる基礎的並びに応用的・実践的な教育研究活動に主体的に参加し、これを推進する指導的役割を担える高度な専門的能力を有する人材の養成を目指しています。そのため、次のような資質・能力を持った学生を積極的に受け入れます。

人間発達環境学研究科の求める学生像

- 1 高度な研究を遂行していくための基礎的な資質・能力
〔求める要素：知識・技能〕
- 2 人間の発達や環境に関する諸問題に対する鋭敏な感受性と深い専門知識にもとづいて新しい課題を析出していく資質・能力
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、関心・意欲〕
- 3 多角的かつ重層的に課題を分析・考察し、体系的に概念化と理論化を行うことができる高度な知的能力
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性、関心・意欲〕
- 4 現代的諸問題を解決するための具体的方策を提案し、柔軟に対応できる行動力
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性、関心・意欲〕



Contents

研究科長からのメッセージ	2
人間発達環境学研究科の構成	3
大学院生の研究活動	4
研究トピックス	6
社会貢献・地域貢献	8
人間発達専攻	10
人間環境学専攻	16
カリキュラム	22
キャリア教育	23
教育・学生生活	24
アクセス	25

研究科長からのメッセージ

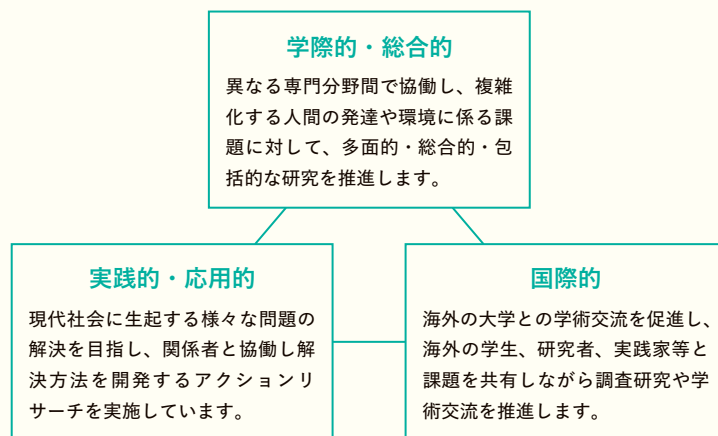


佐藤春実 教授
人間発達環境学研究科長

近年の情報通信技術をはじめとする科学技術の進化やグローバル化の進展は、経済・社会のルールを急速に変化させ、ライフスタイル、人間と社会の在り方、国家間の関係などに影響をおよぼし、地球規模の課題をもたらしています。国内を見れば、少子高齢化が加速し、分断や格差が拡大しつつあります。加えて新型コロナウイルスの感染拡大は、これらの問題の深刻さを顕在化させています。このような状況下では、人間の発達すなわち一人ひとりの人間が潜在的に持つ多様な能力を発現することが妨げられることが危惧されます。「人の発達とは何か」「人の発達を支える環境とは何か」という問いと向き合い、より善き生（well-being）の実現を目指した「知」の構築が求められています。

人間発達環境学研究科は、こうした要請に応えるため2007年4月に設立されました。本研究科は、「ヒューマン・コミュニティ創成研究」という新たな理念を中核に、人間の「発達」や「環境」のありよう、あるいはあるべき姿に関して卓越した教育研究を実施することをミッションにしています。具体的には、人間の潜在的能力が開花するプロセスについて教育研究を行うとともに、そのプロセスを取り巻く環境に関する教育研究を行います。「ヒューマン・コミュニティ創成研究」とは、「人間的な社会（ヒューマン・コミュニティ）の創成を目指して、地域社会、行政、企業、市民などと連携しつつ、人間の発達とそれを支える環境について原理的、実践的に研究する活動の総体」を意味します。

本研究科は人間発達専攻と人間環境学専攻から成っています。人間発達専攻は、心理系、教育系、表現系、行動系の各学問分野から「人間の発達」に係る諸事象を「個人の創造的発達」と「個人の創造的発達を促す関係性」という二つの視点から総合的に捉え教育研究を行います。また、人間環境学専攻は、自然科学、数理情報科学、生活科学、社会科学の各学問分野において、「人間の発達を支える環境」のありよう、あるいはあるべき姿に関して総合的に教育研究を行います。



人間発達環境学研究科は、一人ひとりの人間のwell-beingの実現を目指し、人間の潜在的能力が開花するプロセスやそれに影響を及ぼす環境について教育研究を行う大学院です。今後の社会において、well-beingが重要な言葉となることは疑う余地はないでしょう。本研究科での教育研究の成果が、期待される未来社会へと導く羅針盤となるものと考えています。

みなさんには、柔軟性と受容性をもちながら、持続的かつ包摂的な社会の創成に向けて、ともに歩んでいただきたいと願っています。

人間発達環境学研究科の構成

人間発達専攻 →詳細は p.10

学位：修士（学術）、修士（教育学）、博士（学術）、博士（教育学）

人間発達講座

教育研究分野

- ◎心理系
- ◎表現系（表現創造、表現文化）
- ◎行動系
- ◎教育系（教育科学、子ども発達、発達支援）

前期課程の特別な履修コース

臨床心理学コース

公認心理師（心理臨床の国家資格）資格認定の受験資格が取得可能です。

1年履修コース（社会人対象）

発達支援に関する実践的教育（1年で修士号取得が可能）を行います。

人間環境学専攻 →詳細は p.16

学位：修士（学術）、修士（理学）、博士（学術）、博士（理学）

人間環境学講座

教育研究分野

- ◎環境基礎科学系（自然環境論、数理情報環境論）
- ◎環境形成科学系（生活環境論、社会環境論）

環境先端科学講座（連携講座）（後期課程のみ）

環境科学の先端的研究を推進する中核的研究機関と連携します。

前期課程の特別なサブコース

ESD サブコース

持続可能な開発のための教育（ESD=Education for Sustainable Development）（※）の理論と実践について学ぶことを目的としています。本研究科のすべての学生が、主専攻に加えて選択できるコースです。修了生には、「ESD Advanced Practitioner」の認証が付与されます。

※ 地球規模の環境破壊や、エネルギーや水などの資源保全の問題など、人々が現在の生活レベルを維持しつつ、次世代も含むすべての人々により質の高い生活をもたらすことができる社会づくりが重要な課題になっています。これを解決するため、国連で決議された「持続可能な開発のための教育」のことを ESD（Education for Sustainable Development）といいます。

附属研究施設

人間発達に関する教育研究、実践的研究を行い、地域との連携を進め、多層・多面的なコミュニティを創成し、社会貢献を行います。

ヒューマン・コミュニティ創成研究センター

心理教育相談室

サイエンスショップ

教育連携推進室

アクティブエイジング研究センター

大学院生の研究活動



上田真菜

所属：人間発達専攻 臨床心理学コース 前期課程2年
研究分野：臨床心理学

自分自身に優しくできるようになるには

修了後には、臨床心理士・公認心理師として、学校における児童生徒の心理的支援に携わりたいと考えています。心理的に不適応となっている児童生徒の中には、自分自身の欠点や失敗について、厳しく批判する人がいます。自分に対する優しさは、心の健康と関連します。そこで、自分の不完全な部分を受け入れて、自分自身に思いやりを持つにはどうしたらいいのか、すなわち、セルフ・コンパッションについて研究しています。関心を持っている内容を、実際の支援に役立つ研究となるように組み立てることが重要であり、自身が壁にぶつかった点でもあります。研究成果を、児童生徒が学校で生き生きと過ごせることに繋げたいと考え、日々研究に励んでいます。



村上 瞳

所属：人間発達専攻 表現系（表現文化）前期課程2年
研究分野：認知科学

「間」の伝承から見る 技能伝達に関わる身体の可能性

雅楽は日本の宮廷や寺社で演じられる古典音楽と舞踊の総称で、特定の拍が伸び縮みする独特の「間」を持つリズムが特徴です。その伝承には「唱歌」と呼ばれる右手で拍を取りながら旋律を声で唱える方法が用いられ、楽器演奏の基礎として重要視されています。現代でも唱歌を用いた伝承は続けられており、旋律のイメージを体得することが奏者にとって欠かせません。研究では実際に師匠から教えを受け、稽古の中で感じたことを研究に落とし込むことにやりがいを感じています。この研究を通じ、唱歌（人と人とのコミュニケーション）でしか伝えられないものは何か、また雅楽に限らず、身体を用いる複雑な技能がいかにして伝達可能かという問題について、広く示唆を得たいと考えています。



西野 葵

所属：人間発達専攻 行動系 前期課程2年
研究分野：身体運動制御

足の小指に焦点を当てた バランス制御の研究

私は人間のバランス制御について研究を進めています。特に小趾外転筋という足の小指を動かす筋肉に着目し、バランス制御における役割を明らかにしたいと考えています。仮説を立て、実験を行い、得られたデータを分析して考察を深める過程は試行錯誤の連続ですが、新たな発見が得られるときには大きなやりがいを感じます。また、学会発表や論文執筆、企業との共同研究の手伝いや高校生の探究活動のサポートなど、多岐にわたる経験をさせて頂き、多様な視点や実践的な学びを得ることができました。このような経験を糧に、今後は社会の健康や生活の質向上に幅広く貢献できるよう、多様な分野や人々と協働しながら視野をさらに広げていきたいと考えています。



森 唯花

所属：人間発達専攻 教育系（発達支援）前期課程2年
研究分野：社会教育学

環境学習の場を通じた インクルーシブな居場所の可能性

私は、近代化により自然や他者との関わりが希薄になり、人との関係を築く力も弱まってきた現代社会において、参加体験型環境学習プログラムの場が多様な学習者のインクルーシブな居場所になる可能性について研究しています。学部時代は他大学で環境科学を専攻する中で環境学習について研究しましたが、社会教育の視点からさらに研究したいと考え、本研究科に進学しました。入学後には本学の学生が利用できるESDスタディツアーを通じて環境学習ボランティアをし、学習プログラムの主催者や多様な学習者と実際に出会ったことで、研究テーマがより明確になりました。人と自然、人と人、人と社会の関係を繋ぐこの研究が、持続可能な社会の実現の一助になればと考えています。

人間発達環境学研究科の学生は、人間の発達およびそれを取りまく環境に関わるそれぞれの研究課題に取り組みながら、多様な分野の研究者や学生と協働する学際的研究や実践的研究にも深く関わります。学生はこれらの研究活動を通して、現代的諸問題を解決するための具体的方策を提案し、問題に柔軟に対応できる行動力を身につけます。本研究科に在籍する学生の様々な研究活動の例を紹介します。



飯田紗礼

所属：人間環境学専攻 環境基礎科学系（数理情報環境論）前期課程2年
研究分野：教育工学、数学教育

数学の文章問題読解に特化したICT教材の開発

数学の文章問題を苦手とする生徒に向けて、文章問題の読解に特化したICT教材の開発に取り組んでいます。ある生徒の「文章問題が苦手で、どこから手をつけていいかわからない」と悩む姿が、この研究を始めるきっかけでした。文章問題の読解においては情報の整理・立式に困難を抱える場合があるため、図表を活用して情報の整理や状況把握を促す教材の作成を目指しています。研究では、経験や感覚に頼って理論的裏付け不足となることもありましたが、そのたびに新しい知見を得ることができ、また今後も人が数学を考える過程をより深く学ぶために半年間の交換留学が控えているなど、非常に面白さを感じています。この研究を通し、より多くの生徒に問題解決の楽しさを知ってもらいたいです。



清水公平

所属：人間環境学専攻 環境形成科学系（生活環境論）前期課程2年
研究分野：調理科学

食事をより美味しく、 楽しめる空間とは

私は、食事を摂る空間の照明条件によって、人間の味覚や料理・食品の温度感・食感がどのように変化するかについて調査しています。食事のおいしさに関わる要因は様々にあり、たくさんの変数を考慮した統計解析を行う必要があるため、かなり大変な作業ですが、私は料理がとても好きで、いかに美味しく食べてもらうかについて考えることには妥協したくないため非常にやりがいを感じて研究を行っています。また、学会発表などを通じて様々な人と交流することで、研究についての新しい視点を得ることができるため、さらにモチベーションが上がったと思います。ここで研究したことを生かして、将来は食に関わる仕事をしたいと考えています。



増田莉子

所属：人間発達専攻 教育系（子ども発達）後期課程2年
研究分野：家政学、家族関係学

ケアの視点を育み 支え合う社会を目指す

私たちは、家族や地域というコミュニティの中で、互いに支え合いながら暮らしています。人は誰かをケアし、また誰かにケアされながら生きていますが、「ケアされる存在」であることを意識する機会は多くありません。例えば、家族に看病してもらうことや、友人に悩みを聞いてもらうこともケアの一つです。こうした関わりを通じて、人は社会の一員としての役割を学び、より良い社会のためにできることを模索していきます。しかし、ケアは日常に溶け込んでいるため、その大切さに気づきにくいのが現状です。私は、家庭科教育を通じて、ケアの主体として社会に関わる人を育成できるのではないかと考えています。身近な家族の関係を丁寧に見取りながら、研究を進めていきたいです。



小倉彰紀

所属：人間環境学専攻 環境基礎科学系（自然環境論）後期課程2年
研究分野：保全生態学、景観生態学

美しい田園風景を 後世へ残したい

水田は自然湿地の代替環境として、高い生物多様性を保持していますが、近年の水田減少や農法の変化により、その生物多様性は低下しています。私は、水田の指標生物であるカエルに注目し、水田周辺の地形と生息状況の関係を調査しています。修士課程では捕獲や目視による調査を実施していましたが、これらの手法は労力が大きく、広域の調査や個体数密度の推定が難しいという課題がありました。そこで現在は、環境DNA分析を導入しています。水中のDNAを検出し、生物の存在を把握する本手法は、従来手法に比べて調査コストや環境負荷が小さく、広域な調査が可能です。将来的には、カエル以外の水田生物の分布も対象にし、水田景観全体の保全に向けた具体的な提案を行いたいと考えています。

“ジャンク”から宝へ！

反復配列が切り拓く新たな環境資源植物の可能性

プログラム名「植物進化の鍵～反復配列が語る多様性」

近江戸伸子（人間環境学専攻 環境基礎科学系 自然環境論）

これまで“ジャンク”とみなされていたDNAの反復配列が、植物の進化や多様性に重要な役割を果たしていることが明らかになりました。ゲノムの50%以上を占める反復配列は、遺伝子をコードしていないため変異が蓄積しやすく、種間および種内の比較や分類に有効です。次世代ゲノム、リピートーム、顕微鏡で可視化する染色体解析を組み合わせた革新的な手法により、アジサイの新たな多様性評価を実現しました。この研究では、日本、中国、欧州、北中米のアジサイ野生種など、広範な植物遺伝資源を評価し、日本やヨーロッパの品種開発に役立てることを目指しています。本研究はドイツとの国際共同研究として進めています。

本研究科の関係する教員：近江戸伸子



神戸市のガクアジサイとその染色体

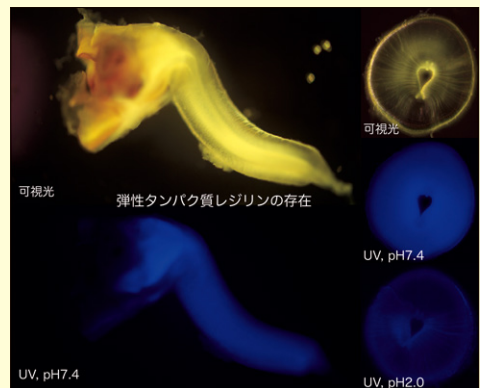
昆虫の固い外骨格が柔らかくなることで獲得する繊維の研究手法を応用した柔軟性の測定により解明します

プログラム「繊維・糸の研究手法を応用した昆虫外骨格の物理特性評価法の開発と柔軟な外骨格の生物学的意義の解明」

高見泰興（人間環境学専攻 環境基礎科学系 自然環境論）

昆虫の多様性は、翅や角のような外骨格の多様性によって特徴づけられ、その機能や進化の研究が進められてきました。キチンとタンパク質によって構成される外骨格はしばしば柔軟性をもち、シンプルな構造でも高度な機能を果たすことを可能にしていると考えられます。しかし、多くの昆虫は小さく、外骨格の物理特性を測定することは難しいため、柔軟化によって得られる機能と、それが昆虫の多様化にどのように寄与しているのかについては、まだよく分かっていません。そこで本研究は、様々な研究分野が融合した本研究科の特徴を生かし、昆虫の進化を専門とする高見泰興教授と、繊維・糸・布の物性測定を専門とする井上真理教授との共同研究により、この問題に取り組みます。

本研究科の関係する教員：高見泰興、井上真理



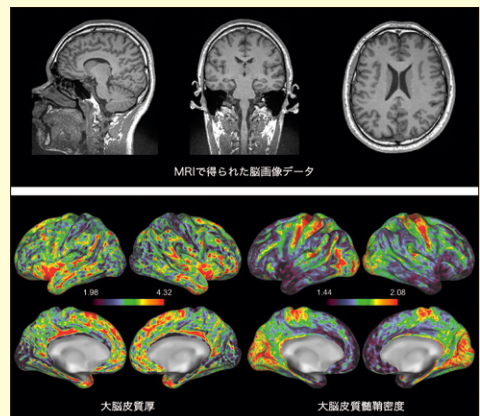
神経発達障害児のライフスタイルと脳発達

プログラム「神経発達障害児のライフスタイルが脳発達に与える影響」

石原 暢（人間発達専攻 行動系）

神経発達障害を有する子どもの割合は年々増加しており、世界では約7%の子どもが神経発達障害と診断されています。神経発達障害には、注意欠如・多動症（ADHD）、自閉スペクトラム症（ASD）、学習障害（LD）などが含まれます。現在の医療では主に薬理学的介入が行われていますが、既存の治療法は対症療法が中心であり、効果の持続性や長期的な予後に関する課題が指摘されています。本研究では、神経発達障害児を対象に、運動、睡眠、栄養などのライフスタイルと、磁気共鳴画像法（MRI）により計測した脳の解剖学的特徴（大脳皮質厚、髄鞘密度など）との関係を検討し、これらの要因に基づくアプローチが薬理学的治療を補完または代替する可能性を探っています。

本研究科の関係する教員：石原 暢



90年前の教育実習記録を 現代の教員志望学生はどう読むか

プログラム「日本とスペインにおける教師教育関連史料の保存とその活用に関する研究：
神戸大学とリエイダ大学における1930年代史料を中心に」

渡邊隆信（人間発達専攻 教育系 教育科学）

神戸大学における教員養成の源流の一つは、明治期に設立された兵庫県明石女子師範学校です。同校とその附属小学校は進歩主義的な気風で知られており、神戸大学には当時の教育実習生が残した貴重な実習記録が保管されています。同様にスペイン・カタルーニャのリエイダ大学でも、第二共和制下（1930年代）の教員養成の記録を保管し、その活用を模索しています。本研究は、両大学の国際比較研究として、90年前の教育実習生が書いた記録に、現代の学生がどのように出会い、読み深めるかについて調査するものです。それを通して、日本とスペインにおける、過去の教員養成の実態を解明するとともに、当時の史料を現代の教員養成で活用するためのヒントを得たいと考えています。

本研究科の関係する教員：渡邊隆信、川地亜弥子



環境と他者にダイナミックに寄り添う 人間的知能(スキル)の研究

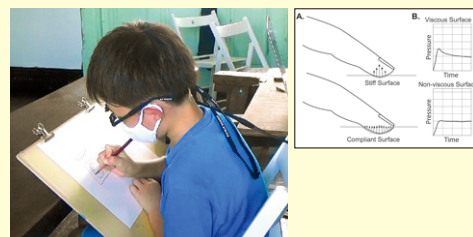
プログラム「適応的スキル発達をめぐる異分野共創研究」

野中哲士（人間発達専攻 表現系 表現文化）

昨今のAIの発展は、変化する環境に柔軟に即応したり、他者に共感したりできる私たちの知能の特徴をあらためて浮き彫りにしました。変化する環境のなかで合目的にふるまう知能は、しばしば「スキル」と呼ばれます。環境と人間が織りなす社会的、生物学的、歴史的、進化的な関係の結び目に生まれる「スキル」の理解は、人間の成り立ちを理解する上で、学問領域を越えてブレークスルーを要する極めて重要な研究課題となっています。本研究プロジェクトは、下記を目的とします。(1) 柔軟に環境と切り結ぶ「スキル」の原理を探究することを通して人間の根源的理解を目指します。(2) 異なる研究領域の研究者たちが協働し「スキルの発達科学」という独自の学際的研究パラダイムを創出します。(3) 学際的な先端研究を通して得られた知見を、地域の課題の解決につなげます。

本研究科の関係する教員：

野中哲士、林創、木村哲也、石原 暢、山本健太、木伏紅緒、岡野真裕、清水大地



学術 Weeks

本研究科の国際交流推進の一環として学術Weeksを設置し、海外から多くの研究者を招聘し、研究集会等の学術交流を行っています。教員のみならず、大学院生も積極的に参加し、領域横断的な学術交流の場となっています。学術Weeksの主な目的は、多くの大学院生が、様々な分野の国際交流を通して、自分の研究を見つめ直し、研究会の企画、運営、発表などの多くのスキルを習得することです。学際的・横断的研究を積極的に進める本研究科において、大学院生が多様な研究領域に接する有意義な機会となっています。

学術Weeks 2024 企画一覧

- ◎環境と調和するスキルの可能性を探る VOL.4 運動・スポーツスキルの先端研究
- ◎国際シンポジウム「ヒトと蜂の共存」を考える
- ◎シンポジウム：インドとイランの打弦楽器を比較する——サントゥールを事例に
- ◎ライティング・シンポジウムⅣ 教師教育とライフ・ライティング：
スペイン第二共和制下におけるリエイダ地方の事例をもとに ※
- ◎音楽文化のトランスボーダー Vol.8
今、感じて考える「B面のシェーンベルクとその時代」
- ◎〔サイエンスショップ〕高校生・私の科学研究発表会2024
- ◎ワークショップ「ダンスから探る2者間の身体性コミュニケーションの可能性」
- ◎環境と調和するスキルの可能性を探る VOL.5
ワーキングメモリの基礎と児童発達支援の実際
——Warabeuta Approach わらべうたアプローチからみえてきたこと ※
- ◎シンポジウム「メンズファッションの歴史を考える：ストリートと雑誌メディア」
- ◎第7回ESD実践研究集会：再開するESD、再会する実践者たち～〇〇〇のススメ～
- ◎シンポジウム：米仏のライティング教育文化を読み解く
——アカデミックとパーソナルという視点

※オンラインまたはハイブリッド

社会貢献・地域貢献

大学と社会をつなぐ5つのプラットフォーム

「人間発達に関する教育研究、実践的研究を行うとともに、地域との連携を進め、多層・多面的なコミュニティの創成および社会貢献に資すること」を目的とし、本研究科が対象とする現代の問題に即してこの目的を実現するため、以下の5つの附属研究施設から構成されています。

ヒューマン・コミュニティ創成研究センター

<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/hc-center>



ヒューマン・コミュニティ創成研究センターでは、本研究科で蓄積されてきた研究成果と、地域社会の実践活動とを融合させながら、現場に即した実践的研究活動を行っています。地域組織、NPO、NGO、企業、行政、学校等の人々と連携しながら、研究・実践を深め、人間らしさにあふれたコミュニティの創成を目指しています。

〔活動例〕

ESD（持続可能な開発のための教育）

ネットワーク支援プロジェクト

ESDに関心をもつ地域社会の団体・組織のネットワーク化を促進します。北東日本大震災の被災地の支援活動やハンセン病療養所邑久光明園の協力のもとで「持続可能な島づくりプロジェクト」等を実施しています。

障害共生支援プロジェクト

「のびやかスペース あーち」や「アゴラ」などの学内施設をフィールドとし、障害のある人々を排除しないインクルーシブな社会づくりに関わる実践・研究・教育を行っています。

各組織に携わる教員

松岡広路、清野未恵子、稲原美苗、加藤佳子、津田英二 ほか

農村部における自然共生社会の探求

人と動物たちが共生できる社会を目指して、野生動物管理という生態学的な観点と、私たちの暮らし方を見直すという社会教育学的な観点の両面から、研究と実践を行っています。

ジェンダー・コミュニティを考える

哲学対話プログラム

女性・シングルマザーの支援をしているNPOや「のびやかスペース あーち」にて哲学カフェを開催しています。日常生活で抱えているジェンダー問題をテーマに対話をしています。

心理教育相談室

<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/psycli>



〔活動例〕

臨床心理面接・プレイセラピー

心理教育相談室には、子どもからお年寄りまで様々な年代や立場の人が相談に訪れており、主に成人を対象とした面接相談である臨床心理面接や子どもを対象とするプレイセラピーを中心に、年間約1000件の相談面接を実施しています。

臨床心理学的地域支援

心理教育相談室担当の本研究科教員はスクールカウンセリング、各種研修会における講師等、さまざまな地域貢献・社会貢献活動をおこなっています。また、ヒューマン・コミュニティ創成研究センター「のびやかスペース あーち」において相談室主催の子育て支援セミナーを開催しています。

各組織に携わる教員

伊藤俊樹、相澤直樹、山根隆宏、安達友紀、岸田広平

心理教育相談室は、地域住民を対象とする心理相談機関と公認心理師養成に関わる実習機関をかねて、これまで活発な相談援助活動を実施してきました。臨床心理学コース（前期課程）の大学院生が臨床心理士・公認心理師の資格を持つ本研究科教員による指導のもと、継続的な心理相談活動に従事しています。

サイエンスショップ

<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/scishop>



サイエンスショップは、地域社会の市民が科学技術をより身近に感じ、「科学」という営みを楽しむ文化をひろげてゆくことを目指し、市民と専門家（科学者、技術者など）の対話と協働の場づくり、市民の様々な科学活動への支援、地域の学校や社会における科学教育に対する支援など実践的な活動に取り組んでいます。

〔活動例〕

市民による環境保全・モニタリング活動への協力・支援
兵庫県内の市民による環境モニタリング活動への連携・支援を行っています。これまでに、環境DNAによるオオサンショウウオの棲息状況調査、河川の一斉水温調査、ビーホテルを用いた蜂類の保全などに協力してきました。この取組には、学生がフィールドワークとして参加しています。

各組織に携わる教員

大串健一、佐賀達矢、源 利文



教育連携推進室

<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/coedu>



教育連携推進室は、乳幼児教育施設、幼稚園等、小学校、中学校、特別支援学校、教育委員会等と連携の上、教育実践研究を推進し、当該研究分野の活性化とその社会還元を通して、教育に係る諸課題の解決に貢献することを目的としています。その目的達成のために、教育連携と、研究開発、拠点形成の3部門を設け、教育機関との連携と協働、教育実践研究の推進を進めています。

〔活動例〕

参画型実践研究を基盤とする高度教員養成プログラム
高度な力量を備えた教員の養成は極めて重要な課題です。同プログラムでは、本研究科と本学附属学校部が連携し、アクション・リサーチにかかわり、高度教員セミナーの受講や実証的研究の推進により、修士課程レベルにおける高度な教員養成を目指します。

各組織に携わる教員

北野幸子、山口悦司、岡部恭幸、渡邊隆信、林創



アクティブエイジング研究センター

<http://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/kaarb>



〔活動例〕

鶴甲いきいきまちづくり——アクティブエイジングを目指して
サードエイジのサクセスフル・エイジング・モデル構築プロジェクト
生涯学習・多世代交流プロジェクト
高齢者の身体システム機能維持・向上への学際的プロジェクト
関西ワールドマスタースゲームズ2027レガシー創造支援研究
活動的な生活習慣と健康増進プロジェクト
アクティブライフ評価と健康寿命の延伸・認知症予防対策
社会的つながりの新たな推定・評価方法の確立

各組織に携わる教員

長ヶ原誠、増本康平、原田和弘、近藤徳彦、片桐恵子、井上真理、田畑智博、近江戸伸子、木村哲也、石原 暢、木伏紅緒、佐藤幸治



人口の高齢化は解決すべき重要な社会的課題であり、世界保健機関（WHO）が掲げる「アクティブエイジング（活力ある高齢化）」はこの課題解決に向けた指針として注目されています。本センターは、研究科に蓄積された研究成果を踏まえ、この分野における先端的研究の創発とその成果の社会的還元を通じ、高齢化に係る課題解決に資することを目的とし、研究を行っています。様々な領域の研究者がとともに行う学際研究や、産官民学の連携による社会実装、海外の研究者とともに国際共同研究を行っており、この分野の研究において、アジアの研究ネットワークのHubとなることを目指しています。

人間発達専攻

人間発達講座

人間発達専攻は、多様な側面を持つ人間の発達を、総合的な視点から教育研究の対象とします。前期課程においては、人間の発達に関する実践的諸課題の解決やそれを支える新たな公共の創出に貢献する、高度専門職業人の養成を目的とします。後期課程においては、人間の発達に関する高度な専門的学識および創造的な研究能力を持つ自立した研究者、または研究能力に加えて、確かな教育開発力を備えた大学教員の養成を目的とします。さらに、特別な履修コース「臨床心理学コース」と「発達支援1年履修コース」を設置し、実践的職業人も養成します。本専攻では、幅広い問題関心のもとに、心理系、表現系、行動系、教育系という各系の方法および視点の多様性を学習し、自らの専門の新たな位置付けや特徴を修得します。

教育研究分野

心理系

心身の発達や健康に関連するさまざまな要因と複雑な相互関係といった人間の心理の包括的な観点から、深い専門性をもって人間の発達について実証的に追究します。

- ◎発達心理学、教育心理学、人格心理学、発達障害心理学、発達障害臨床学、健康心理学、生理心理学
- ◎臨床心理学、発達臨床心理学、カウンセリング

行動系

行動系分野では、人が生涯を通して健康で活動的な生活を送るために、心身の健康、日常生活からレジャー・スポーツにわたる幅広い身体活動、人間行動の発達と加齢などに関わる様々な課題について学際的な観点から研究を行います。

- ◎運動生理学、運動生化学、応用生理学、身体システム学、ニューロメカニクス、スポーツバイオメカニクス、運動・スポーツ心理学、体育・スポーツ史、加齢の身体運動科学、社会老年学、加齢の認知心理学、レジャー・スポーツ老年学、老年行動学、社会心理学

表現系

人間の感性の発現としての表現活動を教育研究対象とし、表現実践を基盤とした理論構築や、その営みによって生み出された様々な「もの」「こと」に関わる多面的な研究を行います。

- ◎表現創造（舞踊学、即興演奏、美術・絵画表現）
- ◎表現文化（音楽文化史、民族音楽学、ファッション文化論、社会情報学、認知科学）

教育系

教育および学習等に関わる社会的・個人的営為を対象に教育研究を行い、人間の誕生から高齢期にいたるところおよび諸能力の発達や人間形成に関わる諸要因について理論的、実証的に探究します。

- ◎教育科学（科学教育、社会認識教育、教育方法学、教育制度、西洋教育史、教育哲学）
- ◎子ども発達（身体発育論、数理認識論、児童文学、美術教育学、発達心理学、家族関係学、乳幼児教育学）
- ◎発達支援（生涯学習論、社会教育論、障害共生支援論、ボランティア学習論、ジェンダー論、自然共生論、子どもコミュニティ支援論）

履修コース（前期課程のみ）

本専攻では、実践的職業人の養成を目的とする2つの特別な履修コースを設置しています。

臨床心理学コース

公認心理師試験の受験資格を取得できるコースで、心理臨床の専門職に求められる実践力と研究能力をともに高めます。

1年履修コース

職業人として高い成果を積み重ねてきた社会人を対象とし、発達支援に関する研究分野において1年間で修士号の取得が可能なコースです。本コースでは、実践に即した研究能力を高め、さらに高度に専門的な職業人としての能力を獲得することを目指します。

取得可能な資格免許

幼稚園教諭専修免許状、小学校教諭専修免許状、中学校教諭専修免許状（保健体育、音楽、美術）、高等学校教諭専修免許状（保健体育、音楽、美術）、特別支援学校専修免許状、公認心理師受験資格（※1）（※2）

修士論文・博士論文題目



修了後の進路



資格免許の取得状況



※1 臨床心理学コースのみ

※2 学部において必要な科目を履修済みか、または受験資格特例の条件を満たす必要があります。

カリキュラム（主な専攻専門科目）

教育研究分野	前期課程	後期課程
心理系	臨床心理検査特論Ⅰ-1、2（心理的アセスメントに関する理論と支援の展開1、2） 発達障害心理学特論Ⅰ-1、2（教育分野に関する理論と支援の展開1、2） 芸術療法特論Ⅰ-1、2 健康教育学特論Ⅰ-A、B（心の健康教育に関する理論と実践1、2） 心理療法特論Ⅰ-1、2（心理支援に関する理論と実践1、2） 認知行動支援特論Ⅰ-1、2（福祉分野に関する理論と支援の展開1） 教育発達心理学特論Ⅰ-1、2 自己形成特論Ⅰ-1、2 心理統計法特論 人間発達特論Ⅰ-1、2 健康行動科学特論Ⅰ-1、2（心の健康教育に関する理論と実践1、2） 臨床心理学特論Ⅰ-1、2 臨床人間関係学特論Ⅰ-1、2（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践1、2） 発達障害臨床学特論Ⅰ（福祉分野に関する理論と支援の展開） 臨床心理実習Ⅰ-1、2（心理実践実習Ⅱ） 心理実践実習Ⅰ 臨床心理基礎実習Ⅰ、2 臨床心理実践演習A-1、2（福祉分野に関する理論と支援の展開1、2） 精神医学特論1、2（保健医療分野に関する理論と支援の展開1、2）	臨床心理検査特論Ⅱ-1、2 発達障害心理学特論Ⅱ-1、2 芸術療法特論Ⅱ-1、2 健康教育学特論Ⅱ-A、B 心理療法特論Ⅱ-1、2 認知行動支援特論Ⅱ-1、2 教育発達心理学特論Ⅱ-1、2 自己形成特論Ⅱ-1、2 発達障害支援学特論1、2 人間発達特論Ⅱ-1、2 健康行動科学特論Ⅱ-1、2 臨床人間関係学特論Ⅱ-1、2 臨床心理学特論Ⅱ-1、2 臨床心理実習Ⅱ-1、2
表現系	[表現創造] 現代絵画特論Ⅰ-1、2 舞踏表現特論Ⅰ-1、2 身体性・創造性特論Ⅰ-1、2 デザイン特論Ⅰ-A、B デザイン特論演習A、B [表現文化] ファッション文化特論Ⅰ-A、B 音楽文化史特論Ⅰ-1、2 音楽民族学特論Ⅰ-A、B 感性研究特論Ⅰ-1、2 メディア情報社会特論Ⅰ-1、2	[表現創造] 現代絵画特論Ⅱ-1、2 舞踊表現特論Ⅱ-1、2 身体性・創造性特論Ⅱ-1、2 デザイン特論Ⅱ-A、B [表現文化] 音楽文化史特論Ⅱ-1、2 音楽民族学特論Ⅱ-A、B メディア情報社会特論Ⅱ-1、2 感性研究特論Ⅱ-1、2 ファッション文化特論Ⅱ-A、B
行動系	スポーツ文化史特論Ⅰ-1、2 身体システム特論Ⅰ-1、2 身体コンディショニング特論Ⅰ-1、2 運動心理学特論Ⅰ-1、2 身体運動処方特論Ⅰ-1、2 スポーツバイオメカニクス特論1、2 スポーツ指導法特論1、2 ニューロメカニクス特論Ⅰ-1、2 行動適応特論Ⅰ-1、2 スポーツジェロントロジー特論Ⅰ-1、2 エイジング特論Ⅰ-1、2 身体機能調節特論Ⅰ-1、2 健康行動加齢特論Ⅰ-1、2 応用身体運動科学特論Ⅰ-1、2 社会関係適応特論Ⅰ-1、2	スポーツ文化史特論Ⅱ-1、2 身体システム特論Ⅱ-1、2 身体運動処方特論Ⅱ-1、2 身体コンディショニング特論Ⅱ-1、2 運動心理学特論Ⅱ-1、2 身体運動技術特論1、2 ニューロメカニクス特論Ⅱ-1、2 エイジング特論Ⅱ-1、2 身体機能調節特論Ⅱ-1、2 スポーツジェロントロジー特論Ⅱ-1、2 健康行動加齢特論Ⅱ-1、2 行動適応特論Ⅱ-1、2 応用身体運動科学特論Ⅱ-1、2 社会関係適応特論Ⅱ-1、2
教育系	[教育科学] 科学教育カリキュラム特論Ⅰ-1、2 教育方法学特論Ⅰ-1、2 科学教育原理特論Ⅰ-1、2 教育制度特論Ⅰ-1、2 社会認識教育内容特論Ⅰ-1、2 西洋教育史特論Ⅰ-1、2 [子ども発達] 数理認識発達特論Ⅰ-1、2 乳幼児教育保育特論Ⅰ-1、2 乳幼児発達特論Ⅰ-1、2 身体運動発達特論Ⅰ-1、2 家庭保育特論Ⅰ-1、2 児童造形表現特論Ⅰ-1、2 児童文学表現特論Ⅰ-1、2 [発達支援] ジェンダー文化学習特論Ⅰ-1、2 ジェンダー・コミュニティ支援論1、2 社会教育・サービスマーケティング支援論1、2 発達支援技術論1、2 生涯学習支援特論Ⅰ-1、2 自然共生地域支援論1、2 自然共生地域支援特論Ⅰ-1、2 インクルーシブ社会支援論1、2 エンパワメント支援特論Ⅰ-1、2 子ども・ヘルシーライフ支援特論Ⅰ-1、2 子ども身体運動・表現特論Ⅰ-1、2 子ども身体運動・表現特論演習1、2	[教育科学] 科学教育カリキュラム特論Ⅱ-1、2 教育方法学特論Ⅱ-1、2 科学教育原理特論Ⅱ-1、2 教育制度特論Ⅱ-1、2 社会認識教育内容特論Ⅱ-1、2 西洋教育史特論Ⅱ-1、2 [子ども発達] 数理認識発達特論Ⅱ-1、2 乳幼児教育保育特論Ⅱ-1、2 乳幼児発達特論Ⅱ-1、2 身体運動発達特論Ⅱ-1、2 児童造形表現特論Ⅱ-1、2 家庭保育特論Ⅱ-1、2 児童文学表現特論Ⅱ-1、2 [発達支援] ジェンダー文化学習特論Ⅱ-1、2 自然共生地域支援特論Ⅱ-1、2 エンパワメント支援特論Ⅱ-1、2 生涯学習支援特論Ⅱ-1、2 子ども・ヘルシーライフ支援特論Ⅱ-1、2 子ども身体運動・表現特論Ⅱ-1、2

※表に記載されている授業科目は、一例です。また、記載した科目においても名称等が変更となる場合があります。



心理系

前期課程では、心理学の専門的知識や技術を持って、心の発達と様相をトータルに研究するための能力と円滑な人間関係をマネジメントできる実践力を養成します。後期課程では、前期課程（臨床心理学コースを含む）での学習・研究を踏まえ、生涯にわたる心の発達について、さらに高度な専門的知識を深めると同時に、解明を求められている研究課題について、多面的・総合的な視点から研究し、成果をあげることのできる人材を養成します。

〔専門分野と研究テーマ〕

相澤直樹 准教授 *

臨床心理学、臨床心理検査（投影法）

青年期の対人恐怖傾向と自己愛傾向、ならびにロールシャッハ検査法を中心とする心理検査法（投影法）について研究しています。

赤木和重 教授

発達障害心理学

自閉症児における自己と社会性に注目して研究しています。特に教示行為の発達と障害について、実証的な研究を行っています。

安達友紀 助教 *

臨床心理学、慢性痛、ペインマネジメント

慢性痛をもつ人のより良い理解と心理支援が研究テーマです。集学的治療、催眠、認知行動療法、準備性、怒り等に関心があります。

伊藤俊樹 准教授 *

臨床心理学、芸術療法

芸術療法・心理療法におけるクライアントのイメージの変化、芸術家の創造性の研究や消費者の深層心理の研究を行っています。

加藤佳子 教授 **

健康心理学、健康教育

心の健康に関する人の行動を探り、健康行動の獲得に関連する要因について解明し、well-beingの向上を目指しています。

河崎佳子 教授 ***

臨床心理学、発達臨床心理学

聴覚障害児の心理発達と家族支援に関して実践研究を重ねてきました。また、被虐待児童への心理的ケアについて取り組んでいます。

岸田広平 講師

臨床児童心理学、認知行動療法

子どもに対する認知行動療法、家族に対する心理社会的支援、学校でのメンタルヘルス予防教育について研究と実践を行っています。

坂本美紀 教授

教育心理学

児童の協調的な学びのプロセスとその支援に関心があり、科学的思考や科学的リテラシーを育成する授業の開発とその評価に取り組んでいます。

谷 冬彦 准教授

人格心理学

青年期におけるアイデンティティ（自我同一性）の研究を中心として、広く自己や人格に関する実証的研究をしています。

林 創 教授

発達心理学、教育心理学

幼児期から児童期を中心とした認知発達に関心があり、とくに他者の心の理解と関連して、社会性などの発達に関する研究をしています。

古谷真樹 准教授

睡眠心理学、生理心理学、健康心理学

心身健康の維持・増進を図るために、睡眠改善に関する基礎的研究と教育現場や地域における実践的研究を行っています。

山根隆宏 准教授 *

発達臨床心理学、発達障害児家族支援

発達障害における情動・社会性の支援、家族の心理や養育支援について、療育や地域の中で実証的かつ実践的に研究をしています。

山本健太 助教

障害者心理学、実験心理学、特別支援教育

自閉スペクトラム症者を対象に記憶が行動選択や感情調整に及ぼす影響について実験心理学的手法を用いて研究しています。

* 臨床心理学コースを担当

** 1年履修コースを担当

*** 2026年3月退職予定



表現系 表現創造

芸術と生活と人生を新たな視点で統合することを目指し、地域社会において芸術に関わる生涯教育のファシリテーターや指導者の育成、あるいはそれと関係した創作などの実践研究、およびコミュニティアートとしての新しい芸術形態の創造開発を目的とした教育研究を行います。

〔専門分野と研究テーマ〕

上田 香 准教授

デザイン学、染織・テキスタイルの創作と研究

デザインとは、美しさを伴う問題解決策です。テキスタイルを通して、実践的で未来を見据えたデザインを制作、研究しています。

清水大地 助教

認知科学、身体性科学

魅力的な表現や振る舞いが生み出される過程について、個人・他者・環境との関わり合いに着目し、研究しています。

岸本吉弘 教授

絵画の創作と研究

近代以降の絵画表現を視覚造形的な視点より分析し、それらに関係対称化される「日本」という存在を見つめています。

関 典子 准教授

舞踊学、コンテンポラリーダンスの創作と研究

舞踊は身体や動きという儚いものを媒体とする芸術です。その現在性にこだわり、表現・研究活動の両面から探究しています。

表現系 表現文化

表現を、人間が意識するかどうかに関わらず生み出してきた文化として捉え、歴史的・社会的に探求します。文献調査や、実験、フィールドワークに実際の表現活動といった様々な研究へのアプローチの中で、表現文化の過去・現在・未来に対する深い認識と柔軟で創造的な構想力を養い、さらに、その認識や構想を他者に向かって分かりやすく説得的に伝えることのできる論理的な表現力を涵養します。

〔専門分野と研究テーマ〕

大田美佐子 教授

音楽文化史、音楽美学

文化史的、あるいは越境的な視点から、今現在の文化との関わりを踏まえて、舞台表現や音楽文化の歴史を研究しています。

田畑暁生 教授

社会情報学、映像論

新しいメディアが次々と登場する「情報社会」で発生する問題や、メディアをどう利用すべきなのかといった事柄を研究しています。

岡野真裕 助教

認知科学、パフォーマンス科学

わざの修得・熟達に重要なこととは何か。心・身体・環境の相互作用という切り口から、実験やシミュレーションで調べています。

野中哲士 教授

発達科学、生態心理学

わざが見せる独特の秩序と、それがかみあう環境の性質から、人の活動が周囲の環境に参加していく発達のプロセスを調べています。

谷 正人 准教授

民族音楽学、イラン伝統音楽

イラン音楽を題材に、即興・オリジナリティ概念を、またサントゥール演奏を通して、音楽演奏に伴う心身の問題を研究しています。

平芳裕子 教授

表象文化論、ファッション文化論

イメージやことばとして表されるファッションの諸問題を、芸術・文化・産業・社会・生活との関わりから考察しています。



行動系

少子高齢化した現代社会において、私達は多様化・複雑化した多くの課題に直面しています。自らが自立して生きがいと幸福感を持ち、活動的なライフスタイルを実現するために、心身の健康、日常生活からレジャー・スポーツにわたる幅広い身体活動、人間行動の発達とエイジングなどに関わる様々な課題について、多角的・学際的観点からアプローチし、人間行動に関する高度な知識と多様な研究手法を修得して、問題解決できる能力を育成します。

〔専門分野と研究テーマ〕

秋元 忍 准教授

体育・スポーツ史

19世紀末から20世紀初頭の英国を主たる研究対象として、近代社会におけるスポーツ文化の特質を、歴史学の方法により解明します。

石原 暢 准教授

応用身体運動科学

子どもの運動・スポーツに伴う体力向上や体格の変化が、認知機能と学力に与える効果について研究をしています。

打田篤彦 助教

社会心理学

「生きやすさ」に主眼を置き、私たちと社会・物理環境の相互作用を多角的に検討し、実際の問題解決への貢献を目指しています。

片桐恵子 教授

社会心理学、社会老年学

超高齢社会での高齢者の活躍、人間関係、コミュニケーションを中心に、社会心理学的な関心から学際的な研究を行っています。

木伏紅緒 助教

身体運動制御、ニューロメカニクス

日常動作やスポーツ動作での神経筋制御と動作能力との関係について、運動学的分析や筋電図分析により解明する研究をしています。

木村哲也 准教授

身体運動システム論、運動生理学

運動生理学やバイオメカニクスなどの手法から、身体運動の制御メカニズムを明らかにする研究を行っています。

近藤徳彦 教授

応用生理学、運動生理学、環境生理学

物理的な外部環境の変化や運動に対するヒトの呼吸・循環・体温調節機構の適応を、生理学的観点から研究を行っています。

佐藤幸治 准教授

運動生理・生化学

運動やサプリメントによる1型・2型糖尿病の新規予防・治療法の開発及び女性アスリートに対する基礎的研究を行っています。

高田義弘 准教授

運動生理学（身体コンディショニング）

競技力向上・障害予防のためのトレーニングと運動による身体コンディションやパフォーマンスへの影響について研究しています。

高見和至 教授

運動心理学

「運動習慣の心理的プロセス」という、人が運動やスポーツを始める行動の発現から定着、習慣化に至る心理を探究しています。

長ヶ原 誠 教授

スポーツ振興論、国際スポーツ文化論

国内外のスポーツプロモーションに関する実践研究を通じて、活動的なライフスタイルと地域活性化の支援方法を探究しています。

原田和弘 教授

老年行動学、健康スポーツ論

身体活動・運動を通じた健康づくりの実現に貢献することを目指し、高齢者の身体活動・運動習慣の形成について研究しています。

前田正登 教授

スポーツ技術論、スポーツバイオメカニクス、スポーツ工学

スポーツの合理的な動作と技術の習得過程に関する研究、及び、選手の技術レベルに適合するスポーツ用具の研究を行っています。

増本康平 教授

認知心理学、高齢者心理学

世界で進展する高齢社会の問題解決を目指し、加齢が認知、感情、意思決定に及ぼす影響について研究を実施しています。



教育系 教育科学

社会が直面する様々な教育課題を対象とした教育科学研究を行います。高度な専門知識や技術を有し、リーダーとして貢献できる研究者、教員、教育行政職等を養成します。

[専門分野と研究テーマ]

Erkki Tapio Lassila 助教

教師教育学、比較教育学

ナラティブの手法を用いて、「環境が、教師とその人間関係に及ぼす影響」を分析し、「才能を引き出す教育を推進する教師教育プログラム」を開発しています。

川地亜弥子 教授

教育方法学

人間の発達を助成する意図的な営みとして教育をとらえ、研究しています。特に子どもの生活と言語表現の指導に注目しています。

田中 伸 准教授

市民性教育、社会科教育学

民主社会において、学校・授業は如何に構想できるか。主体的な社会の形成者としての市民を育てる教育のあり方を研究しています。

山口悦司 教授

科学教育

人々の科学の学習をイノベティブに支援するための学習環境デザインについて理論的・実践的に研究しています。

山下晃一 教授

教育制度論、教育経営学

現代学校組織が直面する課題について、地域との矛盾的関係と、教員の困難（特にベテランの「悲哀」）の2点から研究しています。

渡邊隆信 教授

西洋教育史、教育哲学

20世紀初頭ドイツの「新教育」と呼ばれる教育改革の思想と実践について研究しています。日独の教師教育改革も研究対象です。

教育系 子ども発達

乳幼児から青年期の子どもを対象に、心やからだの発達と教育、言語・音楽・造形表現の発達と教育、数理認識発達と教育に関する専門領域を学び、子どもの教育と発達を総合的に研究します。

[専門分野と研究テーマ]

岡部恭幸 教授

数理認識論、数学教育

算数・数学の教材や授業を通して獲得される数理認識についての研究とその知見に基づく教育内容や方法の開発に取り組んでいます。

北野幸子 教授

乳幼児教育学、保育学

乳幼児の教育内容や方法、保育者の専門性、その確立や向上を図るシステム（専門組織の活動や政策）について研究しています。

木下孝司 教授

発達心理学

乳幼児期における自己と「心の理解」の発達を中心に、教示行為の発達や、障害をもつ乳幼児の発達保障について研究しています。

勅使河原 君江 准教授

美術・造形教育

美術作家が取り組んだ美術・造形教育についての理論研究と対話型美術鑑賞教育についての実践研究の両面から研究しています。

中谷奈津子 教授

保育学、家族関係学

認定こども園等における子育て支援の研究をしています。子どもの最善の利益と家族の幸せに寄与する保育者の役割を考えています。

村瀬瑠美 助教

身体表現・体育学・舞踊論

子どもの身体による表現と、言葉・運動・遊びの発達との関係や、身体表現におけるイメージと動きの関係について研究しています。

目黒 強 准教授

児童文学、国語教育

近代日本における児童文学という文学場の成立過程の検討を中心に、歴史社会学的観点から児童文学の研究に取り組んでいます。

教育系 発達支援

現代社会における人間形成機能の社会的、教育的な開発支援を研究対象に、アクションリサーチを方法論とする実践的な研究を行います。

[専門分野と研究テーマ]

稲原美苗 准教授*

ジェンダー理論、現象学、臨床哲学

ジェンダー理論、現象学、臨床哲学を用いて、社会に潜む特権性や自明性を疑い、マイノリティの問題について多角的に探究します。

清野未恵子 准教授*

自然共生社会、野生動物管理、ESD

農山村地域の人と野生動物の共生を目指した実践を軸とし、持続可能な社会づくりのための人材育成に関する研究をしています。

後藤聡美 助教*

成人学習論、ESD

福祉教育や開発教育、ESD実践の現場で、多様な人々がどのように接触・交差し、変容していくかということを探究しています。

津田英二 教授*

生涯学習論、障害共生支援論

障害に関する社会的課題を切り口として、インクルーシブな社会に向かう人々の学びの方法や過程を追う実践的研究を行っています。

松岡広路 教授***

社会教育論、福祉教育・ボランティア学習論

ESD推進の方法論（原理・システム）を、社会教育および福祉教育・ボランティア学習の観点から考究しています。

* 1年履修コースを担当

*** 2026年3月退職予定

人間環境学専攻

人間環境学講座 環境先端科学講座（連携講座）

人間環境学専攻は、人間の発達を促し、支え、助けるために、どのような環境を、どのように形成し、維持すればよいのか、という問いを立て、その解明に取り組んでいます。この課題に立ち向かうには、多様な分野からのアプローチが必要です。このため、本専攻では、自然環境、数理情報環境、生活環境、社会環境という各分野の専門知識をもとに、この課題に取り組みます。前期課程が目的とするのは、豊富な専門知識とそれを応用する能力、そして実践行動力を有し、政府、自治体、民間企業、NPOなどの多様な領域で人間環境のいっそうの改善のために活躍できる人材の育成です。後期課程は、人間環境に関する高度な専門学識と創造的な研究能力を備える自立した研究者、または研究能力に加えて実践的な教育開発能力をもつ大学教員などの養成を目的としています。さらに後期課程においては、より幅広く環境問題にアプローチするため、学外研究機関の研究者で構成される環境先端科学講座を設置しています。

教育研究分野

環境基礎科学系

人間の生存・生活に関係する環境の成り立ちを理解し、問題・課題を発見するために、環境汚染、気候変動、生物多様性、情報環境などに関し、自然科学・数理科学にもとづく研究を進めます。

- ◎自然環境論（素粒子物理学、宇宙物理学、惑星環境物理学、地質古生物学、地球化学、分子生物学、生物有機化学、高分子化学、光合成酵素科学、進化生態学、植物生態学、水域生態学、環境バイオテクノロジー）
- ◎数理情報環境論（計算機代数、応用解析学、トポロジー、数理統計学、応用統計学、位相的データ解析）

環境形成科学系

人間の発達を支える環境をつくる技術、システム、政策・制度のあり方を探求するために、生活科学・工学・農学・社会科学にもとづき、生活・社会環境に関する幅広い問いに取り組めます。

- ◎生活環境論（衣環境学、食環境学、ヒューマンエレクトロニクス、環境経済学、環境システム論、緑地環境学、都市生態学、環境保健学、ライフスタイル論）
- ◎社会環境論（社会保障、福祉国家、災害被災者の生活問題、途上国政治経済、比較政治、人文地理学、環境地理学、地域研究、地域社会論、移民社会論、社会思想、社会学史、理論社会学、歴史社会学、ドイツ社会政策史）

取得可能な資格免許

中学校教諭専修免許状（理科、数学、家庭、社会）、高等学校教諭専修免許状（理科、数学、家庭、公民）

環境先端科学（後期課程の連携講座）

体系的教育を行う大学院と環境科学の先端的研究を推進する中核的研究機関の連携を通じて、次代の環境科学について探究します。

- ◎大気化学、生物地球化学、マイクロ流体工学、先端健康医工学、分子細胞生物学、遺伝子工学

修士論文・博士論文題目



修了後の進路



資格免許の取得状況



カリキュラム（主な専攻専門科目）

講座	教育研究分野	前期課程	後期課程
人間環境学	環境基礎科学系	〔自然環境論〕 粒子物理学特論Ⅰ-1、2 環境光合成科学特論Ⅰ-1、2 宇宙環境物理学特論Ⅰ-1、2 植物多様性特論Ⅰ-1、2 超分子化学特論Ⅰ、2 環境地質学特論Ⅰ-1、2 環境バイオテクノロジー特論Ⅰ-A、B 環境有機化学特論Ⅰ-1、2 環境適応科学特論Ⅰ-1、2 惑星環境物理学特論Ⅰ-1、2 環境分子生命科学特論Ⅰ、2 環境基礎物質科学B-1、2 環境基礎物質科学C-1、2 環境基礎生命科学A-1、2 環境基礎生命科学B-1、2 自然環境先端科学A 〔数理情報環境論〕 統計推測特論Ⅰ-1、2 非線形数理特論Ⅰ-1、2 統計解析特論Ⅰ、2 情報論理学特論Ⅰ-1、2 数式処理特論Ⅰ-1、2 応用幾何学特論Ⅰ-1、2 応用トポロジー特論Ⅰ-1、2	〔自然環境論〕 粒子物理学特論Ⅱ-1、2 環境光合成科学特論Ⅱ-1、2 宇宙環境物理学特論Ⅱ-1、2 植物多様性特論Ⅱ-1、2 生体超分子化学特論Ⅱ、2 環境地質学特論Ⅱ-1、2 環境有機化学特論Ⅱ-1、2 環境バイオテクノロジー特論Ⅱ-A、B 環境適応科学特論Ⅱ-1、2 惑星環境物理学特論Ⅱ-1、2 〔数理情報環境論〕 統計推測特論Ⅱ-1、2 非線形数理特論Ⅱ-1、2 応用統計解析特論Ⅱ、2 数式処理特論Ⅱ-1、2 応用幾何学特論Ⅱ-1、2 情報論理学特論Ⅱ-1、2 応用トポロジー特論Ⅱ-1、2
	環境形成科学系	〔生活環境論〕 衣環境特論Ⅰ-A、B 植物環境学特論Ⅰ-A、B ライフスタイル特論Ⅰ-A、B 食環境学特論Ⅰ-A、B 生活環境共生特論Ⅰ-1、2 生活環境共生特論Ⅰ-A、B 電子応用機能特論Ⅰ-A、B 生活空間計画特論Ⅰ-A、B 健康環境科学特論Ⅰ-A、B 都市生態特論Ⅰ-1、2 環境経済・政策特論Ⅰ-A、B 〔社会環境論〕 国際社会構造特論Ⅰ-A、B 農村地域構造特論Ⅰ-A、B 都市地域構造特論Ⅰ-A、B 産業社会構造特論Ⅰ-A、B 比較社会規範特論Ⅰ-A、B 社会環境思想史特論Ⅰ-A、B 労働社会構造特論演習Ⅰ-A、B	〔生活環境論〕 衣環境特論Ⅱ-A、B 植物環境学特論Ⅱ-A、B ライフスタイル特論Ⅱ-A、B 食環境学特論Ⅱ-A、B 生活環境共生特論Ⅱ-A、B 電子応用機能特論Ⅱ-A、B 生活空間計画特論Ⅱ-A、B 健康環境科学特論Ⅱ-A、B 都市生態特論Ⅱ-1、2 環境経済・政策特論Ⅱ-A、B 〔社会環境論〕 国際社会構造特論Ⅱ-A、B 農村地域構造特論Ⅱ-A、B 都市地域構造特論Ⅱ-A、B 産業社会構造論特論Ⅱ-A、B 比較社会規範特論Ⅱ-A、B 社会環境思想史特論Ⅱ-A、B 労働社会構造特論演習Ⅱ-A、B
環境先端科学 （後期課程のみ）	環境先端科学		先端健康医工学概論A、B 生物地球化学特論A、B 生体環境先端計測特論A、B 先端細胞生物学特論A、B

※表に記載されている授業科目は、一例です。また、記載した科目においても名称等が変更となる場合があります。



環境基礎科学系 自然環境論

自然環境分野では、自然環境の成り立ちや、環境と人間の相互作用に関する基礎的研究を行う能力を有し、自然科学的立場から人間環境の具体的な諸課題の解決を目指す人材を養成します。そのために、自然環境に関わる物質、生命、地球表層から宇宙にいたるまでの幅広い事柄について、基礎的な理解を深めるとともに、環境汚染、気候変動、生物多様性などの人間生活と密接に関係する環境問題に関して深く考究します。

〔専門分野と研究テーマ〕

青木茂樹 教授 ***

素粒子・宇宙線物理学

ニュートリノ振動に関する実験や成層圏で宇宙から飛来するガンマ線を観測する気球実験など宇宙の成り立ちに関わる研究をしています。

蘆田弘樹 教授

光合成科学、生化学、分子生物学、生物工学

植物などの光合成メカニズムを遺伝子・タンパク質レベルで解明し、光合成的バイオ燃料・物質生産への応用について研究しています。

丑丸敦史 教授

植物生態学、生物多様性科学

花の進化や送粉ネットワークの構造、農業生態系や都市生態系における生物多様性の維持メカニズムについて研究しています。

江原靖人 教授

生物有機化学

生物の優れた能力を利用した、新規機能性物質の創製、さらに、それらの物質を組み合わせた人工細胞、人工生命の構築を行っています。

大串健一 教授

古環境学、地質古生物学、水環境学

地球環境の長期変動のメカニズム解明に向けた海洋古環境の研究と兵庫県の河川の水循環の研究を行っています。

近江戸 伸子 教授

環境資源植物科学

資源植物を対象に新機能の開発や利用、遺伝特性、環境適応について、ゲノム・染色体・遺伝子の研究を行っています。

黒澤耕介 准教授

惑星科学、宇宙生物学、衝突物理学

初期の太陽系は「天体重爆撃」に晒されました。この時代の惑星、衛星、小惑星の表層初期進化を実験的に調べています。

小谷野由紀 助教

非線形物理学、アクティブマター

生物のような自発的に動き回るアクティブな物体やその集団について、それらに共通する物理的な性質を研究しています。

佐賀達矢 助教

市民科学、行動生態学、環境教育

ヒトの自然のとらえ方と関わり、特に昆虫食や生態系保全に興味があります。スズメバチ類の行動や生態の研究もしています。

佐藤春実 教授

高分子化学、高分子振動分光学

環境にやさしい生分解性高分子の構造と物性について、主に振動分光法とX線回折法を用いて研究しています。

高見泰興 教授

進化生態学

昆虫の進化、多様化のメカニズムについて、野外調査、行動実験、形態解析、DNA解析などを組み合わせて研究しています。

谷 篤史 教授

地球惑星科学、物理化学、物性物理学

物質の性質や光・放射線による物質の変化を分光学を用いて調べることで、地球や惑星の環境を理解する研究をすすめています。

源 利文 教授

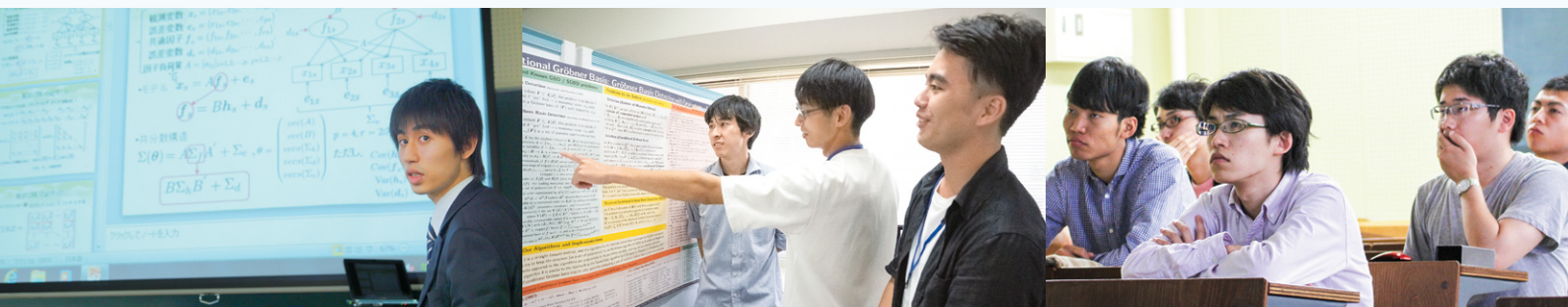
環境生理学、水域生態学、感染症生態学

環境DNAなどを用いて生物の分布、行動、生理を調べています。その応用として感染症の生態学にも取り組んでいます。

*** 2026年3月退職予定

〔修士論文の例〕

- 環境DNA分析を用いたため池の生物多様性を規定する要因の解明
- 雄性両全性同株植物ツクサにおける花形態の性的二型——送粉プロセスに着目して
- 交尾器形態の形質置換と交雑コスト回避の検証
- RNA Polymeraseを用いた種々の糖鎖修飾RNAの合成DNAポリメラーゼを用いた糖・鎖修飾DNAの合成およびその酵素的導入における反応速度論解析
- メタン菌 *Methanosaeta concilii* RuBisCOの酵素学的特性の解析
- 低波数ラマン分光法によるコラーゲンモデル化合物の高次構造とその熱挙動
- エマルションガンマ線望遠鏡による2018年豪州気球実験——姿勢モニター部の開発および多段シフター全面積解析
- ベーリング海における最終氷期の底生有孔虫群集解析
- スズメバチ類の多種共存機構の解明——各種の餌生物、営巣密度に着目して
- 回転対称性のある系内における自己駆動粒子の運動とその分岐構造
- 透明高压容器を用いたガスハイドレート生成その場観測に基づく氷天体の熱史の考察
- 大気圧プラズマを用いたイオン液体を含むメタクリル酸メチルの重合
- 天体衝突による環境擾乱と復元過程に関する研究
- 人工衝突による小天体の軌道変更：衝突後の表層予測



環境基礎科学系 数理情報環境論

数理情報環境分野では、数理科学に対する高い専門性を身につけ、情報環境の多様化・高度化に対応して情報に関わる諸問題に有効な解決策を提供することのできる人材を養成します。そのために、伝統的な数学に根ざしているが、特に情報環境に関わる諸側面の解明に有効と思われる数理科学の諸分野を重視した授業科目を通して、複雑に入り組んだ情報環境に対処するための高度な数理的理論と手法を身につけます。

〔専門分野と研究テーマ〕

Emerson Gaw Escolar 助教

位相的データ解析

データの「形」に着目し、遺伝子発現や企業の技術開発などの複雑な現象に潜む構造を抽出する位相的データ解析を研究しています。

桑村雅隆 教授

応用解析学

物理学、化学、生物学などに現れる非線形微分方程式を分岐理論や力学系理論とコンピュータシミュレーションを利用して調べています。

阪本雄二 准教授

数理統計学

株価の変動のような時々刻々とランダムに変化する現象について、そのメカニズムを解明するデータ解析法を研究しています。

そう い

周 怡 助教

医学統計学、生物統計学

医療研究における結論の正確性を高めるため、新しい統計手法を開発しています。データの統合法と偏りの調整法を研究しています。

長坂耕作 准教授

計算機代数、数学教育

パソコンで代数計算（因数分解や方程式の求解等）を効率的に行う方法、誤差を含む場合や数学教育などへの展開について研究しています。

宮田任寿 教授

幾何学的トポロジー

Shape理論（局所的に複雑な空間への幾何学的なアプローチの方法）、距離空間の幾何学的性質（次元など）について研究しています。

〔修士論文の例〕

- 最適化理論に基づく植物の成長スケジュールについて
- 非同分布に対する情報量規準の正当性
- 有限体上でのパラメータを含む1変数多項式の因数分解
- タブレットを用いた電子楽譜の課題と可能性の追求
- String models and fractal dimensions
- LMSを用いた中等数学の学習段階の可視化
- 特異摂動法を用いた海の波の解析
- FDR基準による多重検定の適用範囲の考察と改善
- 直交不変推定量を用いた線形判別分析とその誤判別確率の漸近展開
- 有限集合の位相とホモトピー
- 中等数学の証明問題における課題——数学的に正しい証明とは
- パラメータを伴ったグレブナー基底の構造的な検出について
- Nerve Theoremについて
- ウィリアムズ法の多群におけるロバスト数値表の提案
- 有限のロットサイズを想定した抜取検査における抜取個数と合格判定個数の求め方の提案とその精度の検討
- Convex set systemsについて



環境形成科学系 生活環境論

現代は「流動化」の時代などと呼ばれます。いいかえれば現代とは加速度的に変化し続ける時代でもあります。そこでは日常の生活さえ刻々と姿を変えており、日々新たな課題が生じています。そこで生活環境分野では、私たちの生活環境を形成する生活空間、生活技術、生活資源の3領域について、社会科学、人文科学、自然科学と、文系・理系の両方にわたる研究手法を駆使して、今日的な課題を取り上げ、分析し、問題解決する能力を養成します。

【専門分野と研究テーマ】

井上真理 教授

衣環境学、感性工学

繊維製品の着心地・使い心地を材料特性から理論的に解析し、環境負荷の低減も考慮した製品設計を提案する研究を行っています。

内山愉太 助教

都市地域環境学、地理情報科学

国内外の都市地域の社会生態系と相互関係に着目した、多様な主体による包摂的な環境マネジメントに向けた研究を行っています。

大野朋子 准教授

緑地環境学、造園学

人間生活と植物利用について探求することで地域固有の景観形成と創造、都市緑地環境の向上に関わる研究をしています。

佐藤真行 教授

環境経済学、環境政策論

環境や生態系の破壊を引き起こす現代の経済システムの問題と、持続可能な発展という課題について研究しています。

田畑智博 准教授

環境システム工学（土木工学）

私たちの生活や経済活動が環境にどのような影響を与えているかを体系的に解析し、持続可能な社会のあり方を提案しています。

福田博也 准教授

生体電子計測、ヒューマンエレクトロニクス

人や植物の生体電位を計測することにより、人と環境に優しい技術・物としての「ヒューマンエレクトロニクス」について研究しています。

村山留美子 准教授

環境保健学、環境リスク学

環境からもたらされるリスクと人の健康との間にある問題に、実験や調査手法を用いて特に社会的な側面からアプローチしています。

湯浅正洋 助教

食環境科学

未利用資源の食品としての有用性評価と調理・加工・利用法の提案や、原理に基づいた新しい料理の開発に取り組んでいます。

横内陳正 講師

産業環境保健学

働く人のwell-being向上を目指し、生活環境や職場環境と健康・パフォーマンス・キャリアの相互関係について研究しています。

【修士論文の例】

- 脳波解析による繊維製品の快適性評価
- 廃棄衣料由来の再生糸と布の物性と風合い評価
- 介護施設における圧力センサを用いた嚥下動作の検出
- インソール型フォースセンサによる床反力及び足圧中心軌跡の推定
- ファッションの循環経済：ライフサイクル思考を用いた古着利用の環境負荷分析
- SDGs ローカル指標を用いた自治体のコンパクトシティ政策の包括的評価
- Study on the purchase intention of New Energy Vehicle: The comparative analysis in Chengdu and Beijing
- 環境税による技術進歩とSO₂削減効果
- 森林植物園における非在来樹種の実生逸出の実態把握と今後の植栽管理への提案
- 中国と日本における市民農園の現状と今後の利活用への提案
- 東日本大震災前後における日本人の原子力発電所に関するリスク認知に関する研究
- 日本人の化学物質に対する phobia に関する研究
- 未利用魚介類を利用した魚醤の迅速調製とその化学組成および嗜好性
- 超音波を応用した食肉の新しい真空低温調理法の開発
- 日常生活における環境格差と都市地域の社会生態系に関する経験の統合解析
- Inclusive urban ecosystem management: towards socio-ecological resilience and preparedness under uncertain futures



環境形成科学系 社会環境論

現代社会の諸課題を解明するには、既存の社会諸科学の成果だけでは不十分です。現代社会のあるべき方向を模索するためには、一人ひとりの人間の発達を基軸にすえながら、世界規模で進む歴史的な変動のダイナミズムを明らかにするための新しい科学が求められています。そこで社会環境分野では、経済学、政治学、法律学、歴史学、地理学、社会学、社会思想など従来の社会科学の研究成果を駆使できる基本的な能力とともに、人間が発達する環境としての社会のあり方を探求できる実践的な構想力を育成します。

【専門分野と研究テーマ】

井口克郎 准教授

社会保障、福祉国家、災害被災者の生活問題
社会保障制度を必要とする人々とそれになう専門職ら双方の人権が保障される社会保障制度のあり方について研究しています。

太田和宏 教授

途上国政治経済、比較政治
グローバル社会の抱える諸問題を発展途上国に焦点を当てて研究しています。特に開発政策と政治構造のあり方について検討しています。

坂井晃介 准教授

社会学理論、歴史社会学、福祉国家論
現代社会における制度や理念が成立してきた歴史のプロセスを、社会システム理論をベースに理論的かつ経験的に研究しています。

澤 宗則 教授

人文地理学、地域社会論、移民社会論
日本の地域社会の変容と問題、移民社会の形成と問題、南アジアの開発について人文地理学の視点から研究を行います。

橋本直人 准教授

社会思想、社会学史
現代社会の根底にある考え方を探るために、社会理論の歴史を研究しています。並行して、思想の計量的研究も進めています。

原 将也 助教

地域研究、環境地理学
おもにアフリカ農村を対象として、社会、経済、政治、自然環境の変化に対応する人びとの暮らしを住民の視点から研究しています。

【修士論文の例】

- 現代日本における新たな「家族」の可能性
- 中国におけるアイドルファンの実態——偏見・差別と人間発達
- 中国の貧困削減政策の展開と課題
——山西省「ターゲットを絞った貧困支援」戦略を実例として
- 中国人技能実習生の帰国後の労働・生活と社会意識
- 経営者報酬の社会的側面
- ストリートミュージシャンという生き方——自己表現と公共性のはざまで
- 動物と人間の共生——保護・管理・権利の狭間で
- 道德教育のジェンダー非対称性
——『私たちの道德』読み物教材の計量分析から
- 日本における寄付文化——マッチング寄付の分析
- ウェーバー理論からみる中国近代化と儒教資本主義論
- 日本のニュータウンにおける高齢者のつながりの諸相
——神戸市美穂が丘を事例に
- 地域に生きる子どもの主体性と安心・安全なまちづくり
——大阪・千里ニュータウンを事例にして
- 場所の喪失と場所への愛着——阪神・淡路大震災を事例に

環境先端科学 後期課程の連携講座

体系的教育を行う大学院と環境科学の先端的研究を推進する中核的研究機関の連携を通じて、次代の環境科学を担う人材を養成します。

【専門分野と研究テーマ】

斉藤拓也 准教授

大気化学、生物地球化学
オゾン層破壊や温暖化に関わる大気中のガス状有機物について、自然界からの放出量や変動メカニズムを理解するための研究をしています。

高田英昭 准教授

分子細胞生物学、遺伝子工学
遺伝子の機能制御に関わる細胞核内のクロマチンや染色体の構造を可視化することで、老化や疾患発症メカニズムの解明に向けた研究を行っています。

永井秀典 教授

マイクロ流体工学
単一細胞から遺伝子を高速増幅する技術や、イムノアッセイ等の分析技術をオンチップ化したマイクロ分析システムの研究を行っています。

淵脇雄介 准教授

先端健康医工学
安全・安心な生活環境を創出するため健康状態を可視化するバイオセンシング技術やレギュラトリサイエンスも含めた実用化研究を行っています。

カリキュラム

人間の発達やそれを取り巻く環境の発展に関わる基礎的あるいは応用的・実践的な教育・研究活動に対し、学生の主体的参加を促し、前期課程では、高度な専門的能力を備えた人材の養成を、後期課程では、さらに独創的で卓越した研究能力を備えた人材の養成を目指します。

博士課程前期課程

		1年次	2年次
研究科共通科目	人間の発達及び人間の発達を支える環境に関わる深い学識の涵養を図る	ヒューマンコミュニティ創成研究 A、B ESD 研究 1、2 / 特別研究 I	ESD 研究演習 1～4 / 特別研究 II
専攻共通科目	人間発達専攻	グローバルリサーチ演習 I	
	人間環境学専攻	グローバルリサーチ演習 I / サイエンスコミュニケーション演習 インターンシップ IA、IB、IC	
専攻専門科目	人間発達専攻		p.11をご覧ください。
	人間環境学専攻		p.17をご覧ください。
修士論文			

学位取得のプロセス

前期課程2年10月…………… 修士論文題目の提出（16単位以上の修得が必要）
 前期課程2年 1月…………… 修士論文の提出
 前期課程2年 2月…………… 最終試験

修了要件

研究科で定められた授業科目を履修して30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文等の審査および最終試験に合格しなければならない。

博士課程後期課程

		1年次	2年次	3年次
研究科共通科目	研究を自立して行う能力や人間の発達に関する共同研究や学際研究を企画・組織する能力、また大学教員としての教育力を涵養する	特別研究 III	特別研究 IV	教育能力養成演習
専攻共通科目	多様な研究分野を俯瞰し、あらたな研究課題や領域の開拓へと活かす創造的能力を涵養する	グローバルリサーチ演習 II		
専攻専門科目			人間発達専攻は p.11、 人間環境学専攻は p.17 を ご覧ください。	
博士論文				

学位取得のプロセス

後期課程1年 4月末…………… 博士論文構想の提出
 後期課程1年 2月末…………… 基礎論文の提出
 後期課程1年 3月…………… 基礎論文の審査
 後期課程2年 1～3月…………… 予備審査論文構想発表
 後期課程3年 10月1日まで… 予備審査論文の提出
 後期課程3年 10～11月…………… 予備審査論文の審査
 後期課程3年 1月17日まで… 博士論文の提出
 （12単位 以上の修得が必要）
 後期課程3年 2月…………… 博士論文の公開、審査、最終試験

修了要件

研究科で定められた授業科目を履修して14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。

キャリア教育

人間発達環境学研究科では、所属する大学院生一人ひとりのキャリア形成を積極的に行っていきます。



1 充実したバックアップ体制

学生のキャリア形成を支援するアドバイザーが常駐するキャリアサポートセンターを設置しており、大学院生が自らの専門性をどのように社会に生かしていくかを考え、そのために必要な学びや行動を実施していく過程を支援します。

2 各種セミナー、ガイダンスの開催

さまざまな就職活動支援（就活スケジュール、エントリーシート作成、業界・企業・仕事研究、グループディスカッション練習、面接対策など）、教員採用試験対策講座、各自治体教育委員会からの説明会、公務員試験対策講座（心理・福祉系など）、OBOG訪問会（業界・企業、仕事研究）、キャリア講座などを開催しています。

3 就職、進路、キャリアに関する個別相談

専任のキャリアアドバイザーが常駐し、就職活動、或いは、進路・キャリア形成全般に関する支援を、個別面談という形でを行っています。具体的には、就職活動全般、自己分析支援、業界・企業・仕事研究支援、エントリーシート作成支援、論文フィードバック、模擬面接、進路・キャリアなどに関する相談に対応しています。

主な就職先 ※2023年度修了生の主な就職先

[人間発達専攻]

住友林業
ソニーグローバルマニュファクチャリング
& オペレーションズ
サルビアジュニア
ゼット
宝印刷
竹中工務店
鳥取こども学園
西松屋チェーン
パナソニックインダストリー
パラマウントベッド
Peer心理教育サポートネットワーク
ブラップジャパン
横浜家庭裁判所
法務省（矯正心理専門職）

芦屋市役所
大阪市役所
名古屋市教育委員会
広島県庁
大阪青凌中学校・高等学校（教員）
京都市立高等学校（教員・国語）
神戸大学附属小学校（教員）
神戸大学附属特別支援学校（教員）

[人間環境学専攻]

NECソリューションイノベータ
エヌエス環境
関電不動産開発
太陽ファルマテック
千代田化工建設
豊田通商
ニチレイロジグループ
日本テレビ放送網
日本触媒
ネスレ日本
パナソニック環境エンジニアリング
船井総合研究所
ベネッセコーポレーション
ポラ化成工業
本田技研工業
レンゴー
岡山県庁
東大阪市役所

図書館



神戸大学附属図書館は、各学部・研究科の研究領域をサポートする専門図書館と、総合図書館の合計9つの図書館から構成されます。鶴甲第2キャンパスには人間科学図書館が設置されています。また、ウェブ上で読める学術雑誌や本のほか、新聞記事、論文情報などを調べられるデータベースも利用することができます。



学内ネットワーク、ICT環境



鶴甲第2キャンパスのほぼすべての教室や共有スペースに、学内無線LANが整備されています。学生の皆さんは、ご自身が所有するPCやタブレットなどでインターネットに接続が可能です。また神戸大学では、学修に必要なソフトウェアのライセンス契約を行っており、学生の皆さんが所有するPCやタブレットで対象のソフトウェアを利用することができます。



ラーニングコモンズ



ラーニングコモンズとは学内の誰でもが自由に利用できる、創造的学習のためのスペースです。学生の皆さんが多様な人々と交流し、学問の垣根を超えた議論を通じて協同の学びを実践する、自由でオープンな場であることをコンセプトとしています。鶴甲第2キャンパス内には4箇所を設置されており、グループ学習やディスカッションの場として日々活用されています。



奨学金

本学には、独立行政法人日本学生支援機構、民間奨学団体・地方公共団体及び神戸大学独自の奨学金などの多様な奨学金制度があります。各奨学金には、卒業後、返還義務のある「貸与」と返還義務のない「給付」とがあります。また、奨学金制度以外に、入学金免除、授業料免除（全額免除・半額免除）の制度があります。



主な協定校

神戸大学と人間発達環境学研究科は、海外の大学等の教育研究機関との間で学術交流協定を締結し、学術および教育上の様々な分野において、研究者や学生の交流をはじめとして教育・研究に関する交流活動を行っています。



学生募集について

学生募集に関する詳細については、学生募集要項をご確認ください。

博士課程
前期課程入試

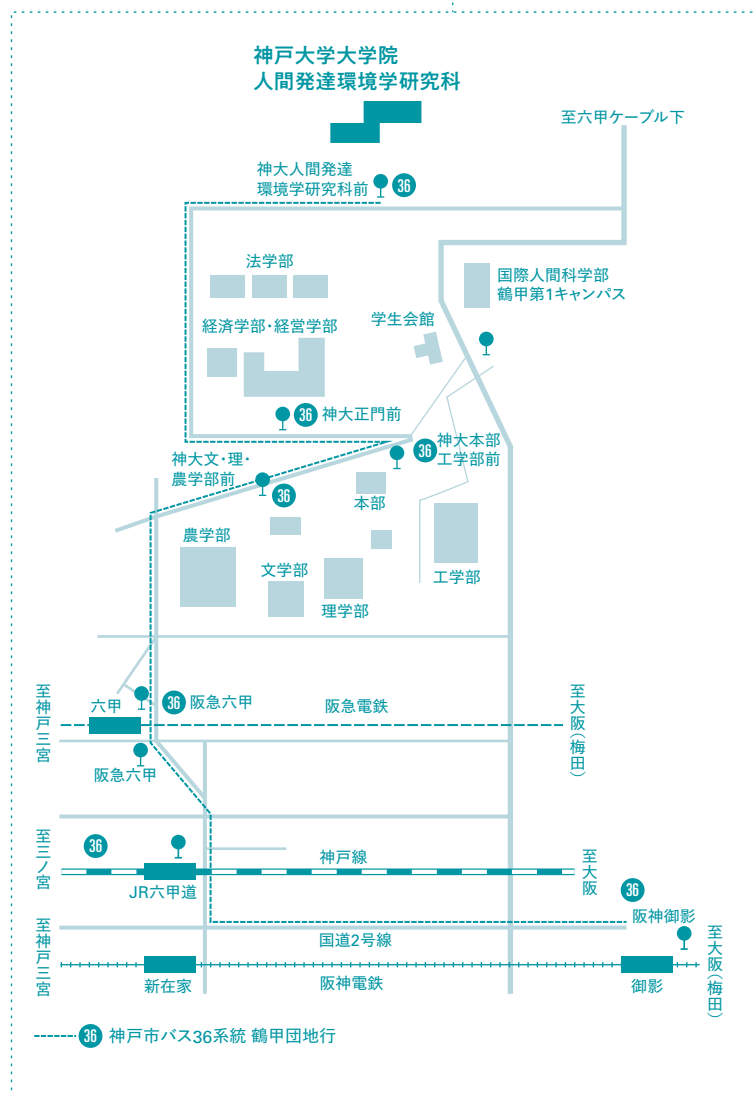
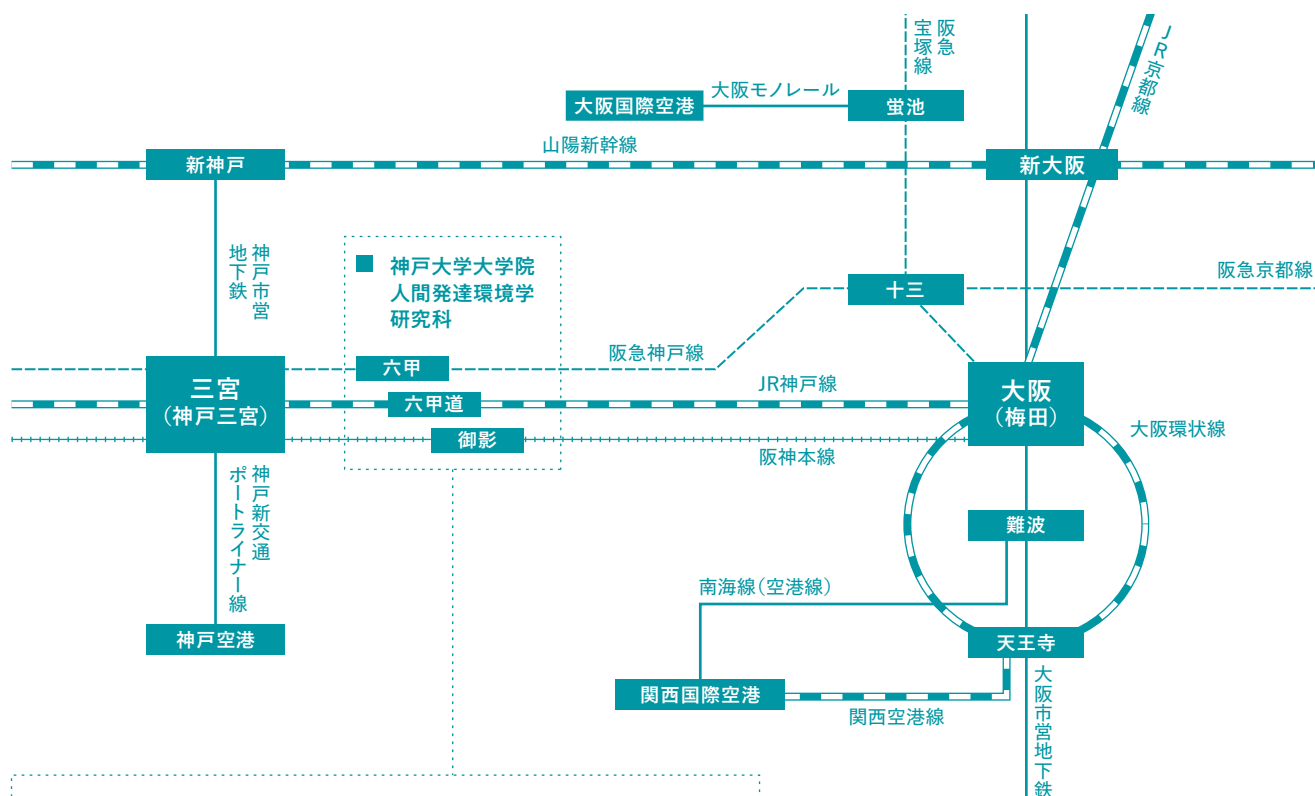


博士課程
後期課程入試



入試に関するお問い合わせ

神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教務学生係
〔所在地〕 〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲3-11
〔電話〕 078-803-7920、078-803-7924
〔メール〕 edu-info@h.kobe-u.ac.jp



最寄りの駅からのアクセス

最寄りの駅は、阪急電車「六甲」駅、JR「六甲道」駅または阪神電車「御影」駅。神戸市バス36系統「鶴甲団地」行（「鶴甲2丁目止」行）に乗り、「神大人間発達環境学研究科前」で下車。

神戸大学大学院人間発達環境学研究科
〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲 3-11
TEL 078-803-7924 FAX 078-803-7929
<https://www.h.kobe-u.ac.jp>



2025年4月発行

